

■ 小学校編 ■

フィールドワークとGISを活用した見方・考え方の獲得と歴史的な思考力の育成

～城下町から現代へ続く佐倉の都市構造の変化を通して～

四街道市教育委員会指導課指導主事
(前佐倉市立間野台小学校教諭)

みやかわ たくふみ
宮川 拓史



1 研究主題について

新学習指導要領では、従前から引き継いだ「生きる力を育む」ことを目標に、新たに育成すべき資質・能力として、三つの柱が定義された。また、その資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」を軸とした授業改善の実現に向けて、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（「見方・考え方」）を働かせていくことを明記した。この「見方・考え方」については、現行の学習指導要領の中でも重視されているが、次期改訂では、中央教育審議会（以下、「中教審」）の答申として「見方・考え方」の具体的なイメージが明記された。本研究では、これらの「見方・考え方」を働かせることによって、歴史学習における時代の転換の様子や各時代の特色を考察する力、つまり、歴史的な思考力を育てることができると思う。

2 研究目標

近世から現代の歴史学習において、フィールドワーク（以下、「FW」）とGIS*を活用して都市構造の変化を可視化することにより歴史的な見方・考え方を獲得し、児童が時代の特色や変遷を考えることができることを明らかにする。

*GISとは

地理情報システム（Geographic Information System）の略称で、地図上に文字や画像などの情報を重ね、それをコンピュータ上で再現できるシステムである。

3 研究の実際

(1) 研究仮説

FWとGISを活用すれば、佐倉の町を空間的な広がりや時間の経過に着目して捉えることができ、歴史的な思考力を育てることができるだろう。

(2) 研究の具体的内容

① 研究主題に関する基礎的理論研究

(ア) 見方・考え方について

答申では、現行の学習指導要領の成果と課題の中で、「社会的な見方や考え方を成長させること等に重点を置いて、改善が目指されてきた」一方で、「社会的な見方や考え方については、その全体像が不明確であり」と示している。この課題を受けて、新学習指導要領では、「社会的な見方・考え方」を社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、課題の解決に向けて構想したりする際の視点や方法であると示した（図1）。

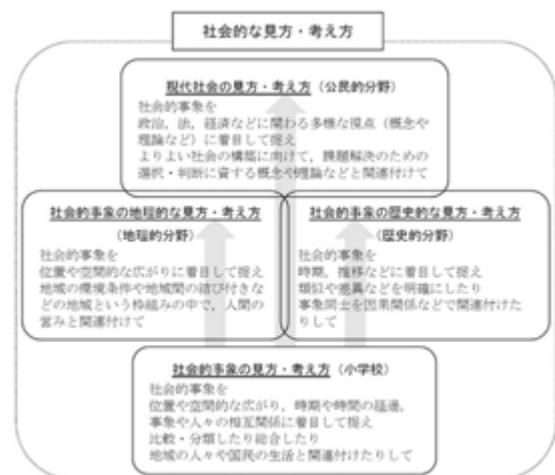


図1 社会的な見方・考え方の系統性

(イ)歴史的な思考力について

新学習指導要領では、思考力を「社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力」であるとしている。他方、歴史的な思考力は、多くの研究者によって様々な解釈があり、明確には定義されていないが、藤井千之助の研究では「今昔の相違や変遷」「因果関係」「時代構造」などを考察する能力であると定義付けている。

(ウ)FW とGISについて

伊藤徹哉によると、FWは、「地図を片手に特定の地域へ出向き、景観や土地利用を観察し、地域住民から聞き取り調査を行い、時には機器や機材による計測などを通じ、その場所の特殊（固有）性や他地域との共通（一般）性といった特徴を明らかにしていく」こととしている。他方、従来の紙地図では、紙という媒体の制約があるため処理できる情報量は限られたものであったが、電子地図となることで膨大な情報を自在に分析・編集・出力・検索することができる。基本機能としては、各種の情報を

層（レイヤー）として記録し、必要な情報を目的に合わせて地図上で表示することができる。

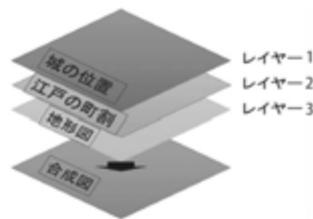


図2 GISイメージ

(図2)

②検証授業の実施と分析・考察

(ア)「社会的事象の見方・考え方」と「歴史的な思考力」に関する分析・考察

第1次「佐倉の町を探検して、時代ごとに整理しよう」

第1時 佐倉のFWをする
地図を基にグループで探検し、児童が感じる「昔」の写真を自由に撮らせた。撮影した場所を地図に書き込み、その概要を記録した。
第2時 写真を時代ごとに整理する
佐倉の町を「お城の前の時代」「お城があった時代」「連隊が置かれた時代」「戦争が終わった後の時代」の4つの時代に色分けをした。

第1次は学習の導入である。FWを行うことで位置や広さなどの空間的な視点を獲得したり時代ごとの色分けの結果として今昔などの歴史的な視点を獲得したりした。

第2次「お城があった時代の佐倉はどのような町であったのだろう」

第3時 お城があった時代の佐倉の概要を知る
江戸時代についての既習事項を確認した後、GISを活用して江戸と佐倉藩の関係を学んだ。また、佐倉城の歴代城主や地形を調べ、その特徴を捉えた。
第4時 FWで見つけたものを古地図で確認する
神社や寺、大手門などを古地図で確認し、白地図上に転記する。「成徳書院」など名前の変わっているものはタブレット端末で確認した。
第5時 お城があった時代の佐倉の町割から時代の特徴を考察する
GISを活用して、古地図と現代の地図を重ね合わせ、お城があった時代の佐倉の町割を確認した。色分けした町割から、武家地、町人地、寺社地がどのように配置されているかを捉え、江戸時代の身分制度との関連を考察した。

第2次は近世の学習である。江戸と佐倉の距離という空間的な視点や「佐倉は交流や政治の拠点」という相互関係の視点が見られた。また、近世のまとめである第5時に多くの考察が見られた。

第3次「連隊が置かれた時代の佐倉はどのような町であったのだろう」

第6時 FWで見つけたものを古地図で確認する
12階段や平井家住宅など、連隊の時代のものを古地図で確認した。ペリー来航から討幕までの流れをプレゼンテーションソフト（以下、PS）で概要をつかんだ。
第7時 近代の中央史と連隊史の概略を知る
外国に追いつく必要性から近代化が進められたことや佐倉に置かれた連隊での兵隊の生活などの概要をGISやPSでつかんだ。
第8時 佐倉の町割から時代の変遷を考察する
古地図の商店名から軍隊関係の店と生活用品の店とに色分けをし、商店街の分布の特徴をつかんだ。
第9時 連隊が置かれた時代の佐倉のまとめをする
古地図やGISを参考に、連隊の時代の町割を白地図に書き込み、その時代のキャッチコピーを自分の言葉で考えた。

第3次は近代の学習である。第2次と同様に授業を進めた結果、地図での確認や町割の比較などの授業では空間的な視点を、中央史や佐倉連隊史を知る授業では時間的な視点を多く獲得した。第3次でもまとめである第9時に多くの考察が見られた。

第4次「戦争が終わった後の時代の佐倉はどのような町であったのだろう」

第10時 戦後の時代の佐倉の概略を知る
連隊地が学校や公園など、平和的に利用されていることをGISで確認し、佐倉の人口や住宅地が増加したことを捉えた。
第11時 商店街の様子から時代の変遷を考察する
1970年と2017年の商店街を地図上で色分けをし、人口は増えたが商店が減ったことやその理由を考察した。

第4次は現代の学習である。戦後の連隊地の土地利用や商店街の変化の授業であるので、空間的・歴史的な視点が多く出現した。また、「高度経済成長」が起こることによって与えた影響など、相互関係の視点も出された。第4次も、2次3次と同様に、まとめの第11時に多くの考察がなされた。

第5次「学習のまとめをしよう」

第12時 単元を通したまとめを自分の言葉で書く
近世から現代までの学習をノートにまとめた。

第5次としての第12時は本単元の総まとめの時間である。各時代のまとめを振り返り、学んだ知識を整理・再構成した。毎時の振り返りシートとは違い、ノートに自由に記述させたため、たくさんの視点や方法を働かせて多くの考察がなされた。

以上のことから、社会的事象の見方・考え方は、授業の内容によって獲得される視点が変わることが明らかになった。また、獲得された視点は、比較したり総合したりすることによって事象同士の関係が明確になり、それらのつながりや因果関係、時代の特色や変遷を考察することができることも明らかになった。

(イ)GISの効果に関する分析・考察

授業後にGISについてのアンケートを行い、その結果をグラフで表した(図3)。バーチャル地球儀ソフトの効果については99%の児童が肯定的な回答をしている。唯一、否定的な回答をした児童の聞き取り調査では、「GISで表している場所がどこなのかを

説明してくれるとよくわかる。紙に落とすとわからなくなる。」ということであった。GISは拡大や縮小が容易にできる反面、それがどの場所なのかを捉えづらくなることがあるので、ランドマークとなるものを画面や紙面に常に表示しておいたり、毎回場所を確認したりという配慮も必要である。

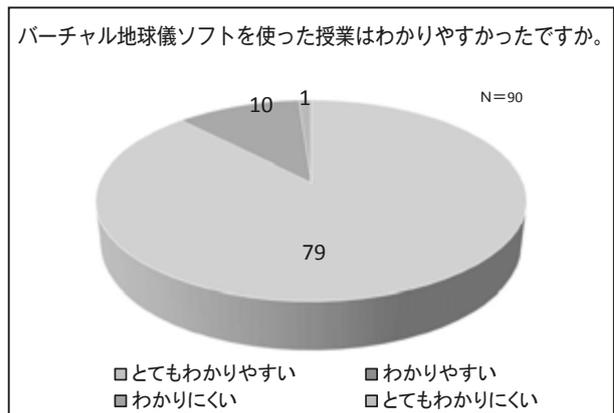


図3 GIS アンケート

4 研究のまとめ

(1)成果

FWとGISを活用することで、土地の利用や分布などの空間的な視点や時代や変化などの時間的な視点、影響や役割などの相互関係の視点で佐倉の歴史を捉え、時代の特徴や変遷を考察することができた。

(2)課題

- ①言語分析だけでは限界があるため、分析方法を研究し組み合わせていく必要がある。
- ②GISの更なる効果を得るために、児童自身が操作できるようにする必要がある。

<参考文献>
 ・『歴史意識の理論的・実践的研究』風間書房 1985
 ・「地理エクスカージョンの意義とは何か」鈴木重雄・立正大学地理学教室編『地理エクスカージョン』朝倉書店 2015

小学校編

複数の情報を関連付けて考察する力を育む算数教育の考察 ～「対話的な学び」を取り入れた学習活動を通して～

松戸市立和名ヶ谷小学校教諭
(前松戸市立中部小学校教諭) むとう たいき
武藤 太樹



1 研究主題について

算数科では、問題解決の過程で問題文に示された複数の数量や事柄の関係を理解し、それらを関連付けながら演算決定する能力が求められる。しかし、これまでの指導の中で複数の数量の関係を理解したり、ある事柄が成り立つ理由をその根拠となる事柄と関連付けて考えたりすることに児童の課題を感じてきた。

平成28年度の全国学力・学習状況調査では、「示された資料の他に必要な情報を判断し、特定すること」「グラフから貸し出し冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を、言葉や数を用いて記述すること」に課題があることが報告されている。このように、問題解決に必要な情報を選択したり、根拠となる事実を関連付けて解決の方法や判断の理由を説明したりする力は、全国的にも課題となっている。

文部科学省は、未来を切り拓くために必要な資質・能力に「必要な情報を選択し、解決の方向性や方法を比較・選択し、結論を決定していくために必要な判断や意思決定」を示している。また、育成すべき「数学的な見方・考え方」を「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること」とまとめている。

このように、事象を他の数量と関連付けて解決に必要な情報を選択したり、考えを表現したりする力の育成が求められている

のである。以上を踏まえ、本研究主題を設定した。

2 研究目標

第5学年「面積の求め方を考えよう」において、複数の情報を関連付けて考察するための効果的な手立てを、実践を通して明らかにする。

3 研究の実際

(1)研究仮説

①情報過多や情報不足の問題に取り組んだり、問題解決を通して、関数の考えの良さを感じたりすることができれば、解決に必要な情報は何かを考えたり、数量間の依存関係に着目したりするようになり、情報を関連付けて考察する力が高まるだろう。

②対話的な学びを通して、複数の情報を基に解決までの過程について話し合ったり、多様な考えにおける共通点について話し合ったりすれば、解決に必要な情報を明確にしたり、多様な考えの関連性に着目したりするようになり、情報を関連付けて考察する力が育まれるだろう。

(2)研究の具体的内容

本研究では、先行研究を踏まえ研究主題や仮説に関わる概念を以下の通り整理する。

①「関連付ける力」について

依存関係や共通性に着目するなど、複数の情報のつながりを捉えたり、問題の構造を理解し、問題を解決するために必要な情

報を選択したり、整理したり、それをもとに立式したりする力。また、変化や対応に着目して、対応関係を見出し、その関係を生かして問題を解決する力。

②「情報過多や情報不足の問題」について
 (ア)情報過多の問題

解決に必要な情報より多くの情報が提示されている問題。また、問題を制約する情報が付け加えられている問題。

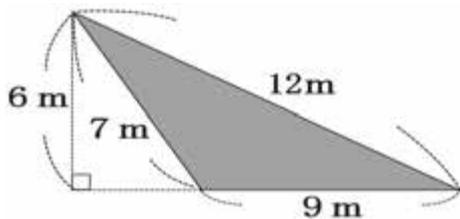


図1 情報過多の問題

(イ)情報不足の問題

解決に必要な情報が直接に提示されていない問題。

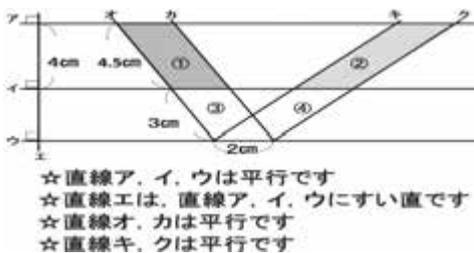


図2 情報不足の問題

③「関数の考えのよさ」について

問題解決を通して、何を変数とするかを考え、依存関係に着目したり、事象を理想化したりして、関連のある他の事象に置き換えて問題を解決することができるよさ。また、変化や対応に着目し、対応関係を用いて問題を解決することができるよさ。

④「対話的な学び」について

問題の構造を理解し、事柄の本質を明らかにするために、複数の情報をもとにした解決までの過程や、多様な考えにおける共通点について、数学的な表現を用いて児童

同士または教師と話し合い、自己の考えを広げたり深めたりする活動。

(3)仮説の検証及び考察

①情報過多・情報不足の問題に関する検証

表は図1・図2のような情報過多・情報不足の2問からなる練習問題の正答数である。学習が進むにつれ、多くの児童が求積に必要な長さを適切に選択できるようになったことが分かる。

表 練習問題の正答者数

	0問	1問	2問
第1時 (平行四辺形)	4人	5人	21人
第3時 (三角形)	3人	3人	24人
第6時 (台形)	0人	2人	28人

また、事前と事後に行った情報過多の調査問題に対し、複数の情報から必要な情報を選択することを「難しい」と答えた児童は63%から7%に減少していた。その理由を尋ねると「授業でどこの長さが必要かを考えたから」と答えていた。このことから、情報過多や情報不足の問題は、情報に主体的に関わろうとする意識を高め、情報を取捨選択する力の向上に有効と言える。

②関数の考えのよさの感得に関する検証

本単元では、等積変形や理想化の考えを基に未知の図形を既知の図形に置き換えて考えることが重要となる。第7時は発展として半円を扱ったが、図3のように台形などの既知の図形とみる（置き換える）ことで、全児童が面積を求めることができた。このような置き換えの考えを単元を通して価値付けたことで、多くの児童が置き換え

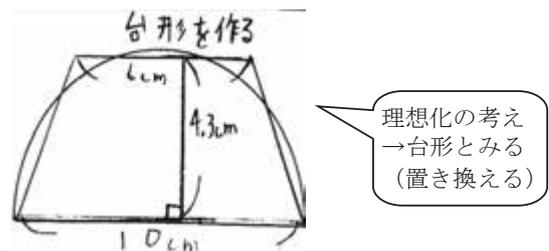


図3 第7時 (半円) の自力解決の様子

の考えのよさを感得することができた。

第8時は台形の求積公式を使い、他のどんな図形が求積できるかを考えさせた。ここでは図形の包摂関係に着目し、台形以外の様々な図形を台形とみるという関数の考えが重要となる。例えば図形が長方形と決まれば、上底や下底、高さが横やたてと決まる。この「決まれば決まる」という依存関係に着目し、97%の児童が長方形などの面積を台形の求積公式で求めることができた。このように、児童は問題解決を通して関数の考えのよさを感得し、新たな問題解決に活用するなど、数量間の依存関係に着目する姿勢を身に付けることができた。

③対話的な学びに関する検証

対話は学力の上位、中位、下位層を混ぜた3人または4人の班で実施した。自分の考えを持った上で話し合いに参加できるよう最初に個人で考える時間を設けた。また、対話の成果が明らかになるように個人で考えた内容は黒で、対話を通して明らかになった内容は赤で書かせた。

下の会話は解決に必要な情報を明らかにするために、複数の情報をもとに解決までの過程を話し合っているプロトコルである。下線のように前回の話し合いを生かして考える様子や、波線のように解決に必要な情報を明らかにする様子が見られた。

A: 全く同じ。底辺が2.5で高さが4、公式は底辺×高さ÷2だから、 $2.5 \times 4 \div 2$ で、答えは5cm²。
 B: 私も $2.5 \times 4 \div 2$ 。前の話し合いで、平行な線の幅は変わらないと言っていたから、これも1つ目の星にアイウは平行と書いてあるから、この4cmを持ってくると、ここが直角になって高さになる。
 C: つまり、この三角形の面積を求めるには、この4.3と4.5以外の全ての情報が必要ってことか。

第4時の対話の一部

図4は対話的な学びに関する事前と事後の調査結果である。グラフから、対話は共通点を明らかにする上で有効な手立てであったことがわかる。

これらの変容は、対話を通して互いの考えを比較・統合する中で、複数の情報を関連付けたり共通点に着目したりする意識が高まったことや、他者の説明を聞いて自分の考えの形成に生かすことができたためだと考える。以上のことから対話的な学びは、情報を関連付ける力の向上に効果があると推察される。

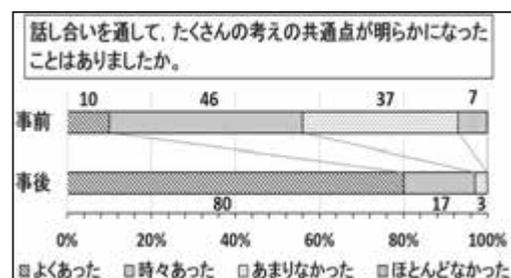


図4 対話的な学びに関する調査結果

4 研究のまとめ

(1)成果

- ①単元を通して、三つの手立てを取り入れたことで、情報に対する意識を高め、情報を関連付けて考察する力を育めた。
- ②求積に必要な長さはどこかを考えて測定したり置き換えたりする活動を通して、底辺と高さの関係や公式の意味を理解したり、図形の見方を広げたりすることができた。

(2)課題

- ①下位層の児童には、情報過多や情報不足の問題は難易度が高く、自力解決に時間がかかった。対話や振り返りの時間も含めて45分に収めるには、問題の質や提示の仕方、時間配分に工夫が必要であるとわかった。
- ②関数の考えは領域や単元を問わず、様々な問題の解決の場面で用いられる。児童が関数の考えのよさに気づき、それを問題解決に積極的に生かそうとする態度を育てるには、全ての単元において、どの場面で、どの関数の考えが働くのかを明確にし、その価値を共有していくことが必要だと考える。

● 企業派遣編 ●

AEONから学ぶ組織マネジメント

～小売業の現場に身を置き、五感で感じたことを学校経営に生かす～

県立特別支援学校市川大野高等学園校長 たなか まさのり
 (前県立君津特別支援学校教頭) **田中 均宜**



1 はじめに

イオンリテール株式会社は、めまぐるしく変化する市場や環境に素早く対応するため、各カンパニーに権限を委譲し、各店舗が主体となって経営することで、真の地域密着経営を実現している。一方、イオン株式会社（以下、「AEON」）は、「人材育成を企業の基盤におく」というコンセンサスのもとで、人材育成にも力を入れ、教育制度が確立している。

日本小売業No.1のAEONの様々な先進的な取組から、今後の学校経営に生かせる組織マネジメントを学ぶことができた。また、小売業の現場（イオン稲毛店）に身を置き、五感を研ぎ澄ませて、様々な業務を経験させていただく中で、多くの示唆を得ることができた。1年間の研修の成果を「人材育成」「業務改善」の視点で報告したい。

2 研修内容

(1) 実地研修

- ・ バックルームから売場への品出し
- ・ 在庫管理、商品の発注、売価変更等
- ・ 昼礼及びマネージャー会議への参加

(2) 地域貢献関係研修

- ・ 地域への挨拶回り、店舗への要望等調査
- ・ 浅間神社夏祭り警護手伝い
- ・ 職場体験実習支援
- ・ 「チアーズクラブ」補助

チアーズクラブ：「子供の健全育成」を目的に、店舗近隣に住む小中学生が集まって環境について学び、集団活動をとおり社会的ルールやマナーを学んでいく組織。

(3) 販売促進業務研修

AEON夏の抽選会等 運営補助

(4) イベント企画

パラスポーツ体験イベント企画、運営

3 研修成果

4月に着任してすぐに店長から一冊の本を手渡された。AEONの現名誉会長である岡田卓也氏の実姉である小嶋千鶴子氏が書かれた『あしあと』という本である。小嶋千鶴子氏がしっかりとした教育体系を築き、組織マネジメントと人材育成を一体として取り組んでいることがAEONの大きな強みであることを、まずは知ってほしかったと店長は話してくれた。『あしあと』には、管理職として肝に銘じておくべきことや学校現場で生かすべき組織マネジメントのエッセンスがたくさん書かれてあった。その一部を紹介したい。

- ・ 「教育を受けるか受けないかは、自主性に任せるのが基本。上司が教育を推奨する職場では部下が意気に感じ、職場全体のモラルが上がる。」
- ・ 「人々のモラルに支えられた企業は強い。発展力のある職場風土とは、職員が自己の能力を発揮する場への期待がある。人事政策の第一の基本は、職場の中に良き風土を創造し、それを維持・浸透させること。」
- ・ 「働く人一人一人の精神面での安定が仕事の効率に大きく影響する。最も重要なのは、休日・休暇の制度、休憩室・社員食

堂等の環境整備。」

・「不正には峻を！失敗には寛を！」

A E O Nが営業収益6期連続で日本小売業No.1を達成している秘訣を垣間見た思いがした。A E O Nが大切にしているこれらの基本的な考え方を良き手本として、校内における研修体制の充実を図り、組織マネジメントと人材育成を一体として取り組む学校経営をしていかなければという思いを強くした。

(1)人材育成～人をよく知り、人を大切に して、人を生かした組織づくり～

店長は「プライベートを知らずして本当のコミュニケーションをとることはできない。」と社員との対話を大切にされていた。社員の顔をしっかりと見て、一人一人の状況を把握するとともに、会社の方針や店長としての考えを、昼礼や合同朝礼の場でくり返し伝えていた。また、一日に何度も店内を巡回しながら、フレンドリーに称賛や激励の言葉をかけていた。ときには事務所に呼んで、厳しく指導する様子も見られた。

『あしあと』には、「より良く知ることである。人は個々違う、違うことを知ることである。一人一人について、過去どのように生きてきたかを知り、今後どのように生きていきたいかという希望を知り、目標をも持たせることである。」「人を生かした組織は必然的に、仕事が楽しくなる、会社が楽しくなるという好結果を生みだし、活性化がもたらされる。」と書かれてある。まさに、店長が日々実践されていることである。

学校現場でも、店長の実践を良きモデルとして、教職員個々の良さ・持ち味や可能性を引き出すことを大切にした組織づくりを心がけたい。そして、失敗を恐れずにチャレンジする活気あふれる職場風土を創りあげたい。

そのためには、教職員との対話を大切に
して、一人一人の夢(目標)を知り、その
実現を支援することで、教職員個々のやる
気を喚起し、能力開発・人材育成を図って
いきたい。

(2)業務改善

①5Sの徹底

小売業の基本は「5Sの徹底」である。

「5S」とは「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰(基本・ルールの遵守)」のことである。

日用品を取り扱っている「デイリーコンビニエンス」という部署の「ペット部門」を6月後半から任せられた。「5Sを徹底すれば売上はアップする。」という店長の言葉のとおり、在庫処分等を含めて、積極的に「5S」に取り組んだことで、7月8月は月予算・昨対ともに100%を大きく上回り、店長から高く評価していただいた。

学校現場でも、この「5S」の徹底に取り組みたい。校内の不要なものを廃棄し、「整理」「整頓」する。そして、毎日、児童生徒みんなで心を込めて「清掃」し、常に「清潔」な環境をつくる。厳守すべき基本(マナーやルール)を明確化し、児童生徒主体の安全で安心な学校を創っていきたい。

「『5S』を徹底することで、余裕をもてる時間をつくることができる。時間の余裕がもてると自ら考え工夫したり新しいことにチャレンジしたりする気持ちの余裕が出てくる。気持ちに余裕が出てくれば、「変革への挑戦」意欲が高まり、「仕事がおもしろい！」と思えるようになる。」という店長の言葉を胸に、そんな学校を創っていきたく思っている。

②迅速なPDCAサイクルの活用

売上は、毎日1時間ごとにリアルタイムで更新される。IDをもっている社員・従業員であれば、誰でもいつでもPCで確認することができる。これは、迅速なPDCA

サイクルが機能しているかどうかを随時確認できるということであり、常に評価されているということでもある。結果が数字として明確に出ることはとてもシビアではあるが、分かりやすくフィードバックされ、モチベーションアップにもつながることを実感した。

毎日午後2時から行われる昼礼では、「累計売上額」「日割予算額」「午後1時現在の売上額」「最終売上推定額」を各部門のマネージャーが報告する。その日の天候や気温の変化等をふまえて、予算達成のための対策が講じられているかが評価され、その対策や最終売上推定額が適切でなければ、すぐに店長から指導が入り、修正を指示される。つまり、PDCAサイクルがものすごく速いのである。

学校現場では、各教科・領域、行事、分掌等の評価スパンは長短様々ではあるが、その時々状況に応じた多種多様なPDCAサイクルを活用し、業務改善に迅速に対応すべきであると感じた。

③ワークスケジュールの立案と見える化

店長は「計画の無いところに成果無し。計画は課長やマネージャーだけではなく、かわる全員が情報共有しなければ意味がない」とよく話をされていた。ワークスケジュールを見れば、各部署のメンバーの勤務時間と業務内容等是一目瞭然である。個々の業務が明確になるだけでなく、チームとしての協働体制づくりにもつながっていく。

A E O Nは所定外労働時間の削減や36協定遵守へも真摯に取り組んでいる。

学校現場でも、まずは勤務時間の適正化への意識改革を図っていかねばならない。その上で、業務改善につながる有効な手立てと考えられるワークスケジュールの立案と見える化を実施していきたい。

4 おわりに

「イオン稲毛店」のすばらしい店長とスタッフの方々の御支援をいただきながら、小売業の現場に身を置き、売場での様々な業務の他、地域貢献活動や販売促進業務、イベント企画にも携わらせていただいた。その一つ一つの体験や社員・従業員、お客様との対話の中で、五感をとおして、心で様々なことを感じる事ができた。たくさんさんの貴重な経験や学びを、教育現場に生かし、広げていくことが私に課せられた命題だと感じている。

「思い込みは取り残される。常に新しいものを！企業にとって現状を維持するという考えは無い。現状維持は停滞・下降を意味する。常に向上を目指していかなければいけない。」と店長が話されていたことが心に強く刻まれている。

今、市川大野高等学園で「本物の働く力を育み、笑顔輝く生徒の育成」を教育目標に掲げ、全ての生徒の企業就労と豊かな社会参加の実現を目指して、全教職員で心一つにして、一人一人の生徒に応じた指導・支援に当たっている。

「変革への挑戦」というタイトルの校長通信を5月から週に2～3号発刊し、良き伝統を再確認し、継承しつつも、前年踏襲ではなく、新しいチャレンジを続けていくことの大切さや重要性を教職員に伝える努力を続けている。また、今年度、研究指定を受けた「生涯学習」をキーワードに教育課程の再構築を図っているところである。これからも、常に、感謝と謙虚な気持ちを忘れずに「変革への挑戦」を続けていきたい。

このような貴重な研修の機会を与えてくださり、支えていただきました全ての皆様に心から感謝申し上げます。